

<中総体壮行会 激励の言葉>

それでは、引き続いて校長先生から激励の言葉を伝えます。

ただいま、部長代表の内野さんから力強い決意の言葉をいただき頼もしく思いました。その言葉にあったように、今年は昨年と違って無観客にはなりますが、大会が開催されることになりました。大会が開催されることに感謝しつつ、また昨年卒業した3年生の思いも込め、皆さんの約2年半の練習の集大成を大会で発揮してほしいと思います。

この壮行会に参加して、校長先生も中学生のとき中学校総合体育大会に参加したことを思い出しました。約40数年前ですが今でも覚えています。

当時野球部で、1点負けていました。最終回に運よく校長先生が塁に出てノーアウト2塁という同点のチャンスでした。気持ちは何とか進塁したいという思いが強くて平常心ではなかったと思います。それを見抜かれたのかトリックプレーに引っ掛かりけん制でアウトになってしまい、同点のチャンスを逃がして負けてしまいました。最後に自分の力を発揮できなかった悔しさに涙が出てきましたが、たまたま連盟の大会を勝ち進んでおり、夏の大会で負けた後の試合では必死にプレーし最後は県大会の準決勝で負けてしまいましたが、やり切ったという思いが残っていました。

試合をしたり、コンクールに出場したりすれば、勝ち負けや評価が必ずついてきます。勝って次の試合、上の大会に出場できることが一番望ましいですが、相手も同じような気持ちで臨んでおり、勝つことは並大抵ではないことも予想されます。また、勝負は運に左右される場合もあります。ですから最後の大会となる3年生の皆さんには、心を落ち着けて自分のプレーに専念し力を発揮してほしいと願っています。たとえ負けたとしても自分が納得いくプレーができていれば、悔いは少なく勝った相手にも敬意を表することができます。戦うのは、相手である前に「弱い気持ちになる自分」です。

応援はチームの仲間しかおらず寂しいかもしれませんが、苦しい時こそお互いに声を掛け合い、最後まで佐織中学校の代表として胸を張ってプレーしてくれることを願って激励の言葉とします。終わります。